

石川県議会議員
タイ・香港地方行政視察
報 告 書

平成27年10月
石 川 県 議 会

目 次

I	日 程	• • • • •	1
II	参 加 議 員	• • • • •	2
III	視 察 記 録	• • • • •	4
IV	参加議員報告	• • • • •	31

日 程

月 日	時 間	内 容
10月18日(日)	09:00	集合 (小松空港国際線カウンター)
	09:20	結団式 (小松空港ターミナルビル2階「小松」)
	10:45	小松空港発 (大韓航空 776 便)
	12:40	韓国・仁川国際空港着
	17:40	韓国・仁川国際空港発 (大韓航空 651 便)
	21:10	タイ・スワンナプーム国際空港着
		ホテルへ移動
10月19日(月)	10:00	タイ国際航空訪問
	14:00	H I S バンコク支店訪問
	15:30	ジェトロバンコク事務所訪問
	18:30	交流会 (タイ国石川県人会)
10月20日(火)	09:20	タイ国政府観光庁訪問
	11:00	現地進出企業 (ハチバン) 訪問
	15:00	現地進出企業 (バンコクコマツ) 訪問
	18:30	夕食会 (国際交流基金、ジェトロバンコク)
		【バンコク市内泊】
10月21日(水)	10:00	ノックスクート航空訪問
	13:55	スワンナプーム国際空港発 (タイ国際航空 638 便)
	17:40	香港国際空港着
		ホテルへ移動
10月22日(木)	10:00	E G L ツアーズ訪問
	14:15	キャセイパシフィック航空訪問
	17:55	香港国際空港発 (大韓航空 602 便)
	22:35	仁川国際空港着
10月23日(金)	09:05	仁川国際空港発 (大韓航空 775 便)
	10:50	小松空港着、解散

参 加 議 員

下 沢 佳 充 （自由民主党石川県議会議員協議会）
安 居 知 世 （自由民主党石川県議会議員協議会）
室 谷 弘 幸 （自由民主党石川県議会議員協議会）
横 山 隆 也 （自由民主党石川県議会議員協議会）
石 坂 修 一 （未来石川議員会）

随行職員 越野 晃 （議会事務局企画調査課調査専門員）

訪問団名簿

団 長	小松空港国際化推進石川県議会議員連盟会長	
	石川県議会議員	福村 章
副団長	石川県議会議員	石坂 修一
団 員	石川県議会議員	安居 知世
〃	石川県議会議員	室谷 弘幸
〃	石川県議会議員	横山 隆也
〃	小松市議会議員	吉村 範明
〃	小松市議会議員	二木 攻
〃	小松市議会議員	片山 瞬次郎
〃	小松市議会議員	新田 寛之
〃	加賀市議会議員	林 茂信
〃	加賀市議会議員	宮崎 護
〃	能美市議会副議長	居村 清二
〃	小松商工会議所会頭	和田 衛
〃	小松商工会議所事務局	嶋津 憲二
秘書長	石川県議会議員	下沢 佳充
事務局	石川県企画振興部次長	大坪 弘敏
〃	石川県企画振興部空港企画課参事	北村 裕一
〃	石川県観光戦略推進部国際観光課課長補佐	中村 一弥
〃	石川県議会事務局企画調査課調査専門員	越野 晃
〃	石川県観光戦略推進部国際観光課専門員	内田 潔
〃	石川県企画振興部空港企画課主任主事	竹本 太郎

視察記録

平成 27 年 10 月 18 日(日)

< 結団式 (小松空港) >

小松空港ターミナルビル2階で訪問団の結団式を行い、秘書長の下沢佳充県議会議員の進行のもと、団長を務める福村章小松空港国際化推進石川県議会議員連盟会長から挨拶があり、訪問の成功と一行の安全を祈願して、副団長の石坂修一県議会議員の発声により、乾杯（ジュース）が行われた。



福村団長挨拶



石坂副団長



< 出国 >

小松空港を出発、韓国・仁川国際空港を経由し、タイ・スワンナプーム国際空港着（バンコク市内泊）

平成 27 年 10 月 19 日(月)

< 訪問調査 (タイ国際航空) >

- ・ 時 間 : 10 時 ~ 11 時
- ・ 対応者 : ウィワット・ピヤウィロ タイ、インドネシア地域営業総括副社長
ナットハブット・ロカシリワット ワールドサプライズ旅行社社長

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ 小松ータイの定期便開設のため、昨年に引き続き訪問した。
- ・ 前回訪問時は、チャーターで実績を積み重ねるべきとの話があり、昨年度は、御社の機材により、3回の双方向チャーター便を成功させた。
- ・ ことしも、11月と年末年始に御社のチャーター便が決まっているほか、来年2月にも運航を予定している。引き続き、協力をお願いしたい。
- ・ チャーター便の運航を梃子にして、定期便の開設につなげたいと考えており、今後の協力をお願いする。

◎ ウィワット副社長挨拶概要

- ・ 皆様の訪問を歓迎する。
- ・ 観光客誘致のみならず、チャーター便の運航にも取り組んでいただいております、乗客拡大への寄与に感謝する。
- ・ 現在、弊社は、航空会社間の競争が激化し、営業面が困難な状況にある。新規路線の開設には、保守的にならざるを得ない状況だが、意欲を止めたわけではなく、引き続き、事業の改善及び前進を図っていきたい。

◎ ナットハブット社長挨拶概要

- ・ ビザ緩和以降、日本への訪問者が増加しており、大変喜ばしい。
- ・ 弊社では、立山黒部アルペンルートを中心に、金沢か富山に一泊する観光商品を10年前から販売している。
- ・ アルペンルートの雪が解けるとタイ人の足は遠のくが、北陸には、まだほかの魅力がたくさんある。
- ・ 観光プロモーションは、一度限りでは成功せず、継続していくべきである。

◎ 意見交換・質疑応答等

Q : 御社の機材によるチャーター便の運航については、引き続き、協力をお願いしたい。

A (ウィワット副社長) : 小松空港がキャパシティのある空港だとは認識しており、貴県の努力も聞いているが、定期便の就航には、十分な需要確保が必要である。弊社は、これまで日本海側に路線を持っていないため、小松空港は、地理的にも、ほかの空港と全く違うカテゴリーである。また、現在、経営改善に向けた改革中であり、ヨーロッパのルートも幾つか廃止している。現状では、新規路

線の開設には保守的な状況となっているが、小松便の開設を諦めたわけではない。準備が整った段階で、幹部に就航を提案していきたいと考えている。

Q：立山黒部アルペンルートや兼六園、高山市のほかにも、石川には、魅力ある観光地が数多くあるが、どのような感触を持っているか。

A（ナットハブット社長）：以前は、タイ人の旅客は、同じようなコースを回ることが多かったが、最近は、新たなルートの紹介も進んでいる。一方、各所で価格競争が生じており、今後は、質で勝負していく必要がある。

Q：東京、大阪では、ホテルの空きが少ないと聞いているが、両地域を初め、京都等へもアクセスが良い本県に滞在し、鉄道パス等で国内を周遊する旅行商品も検討してはどうか。

A（ナットハブット社長）：今後のトレンドとしては、増加傾向にある個人旅行者をいかに惹きつけていくかが重要である。

Q：タイからの誘客に当たり、改善したら良い点はあるか。

A（ナットハブット社長）：日本の大型バスのトランクルームには、大きなスーツケースが収納できないので、改善してもらえるとありがたい。



面談会場



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶





ウィワット副社長挨拶



左：ナットハブット社長



意見交換・質疑応答等



< 訪問調査（H I Sバンコク支店） >

- ・ 時 間：14時～14時50分
- ・ 対応者：中村 謙志 H I Sバンコク支店統括支店長
 鈴木 敦史 H I Sバンコク支店ゼネラルマネージャー（海外営業本部）
 西岡 功二 H I Sバンコク支店マネージャー（法人団体担当）
 石水 邦彦 H I Sバンコク支店マネージャー（北陸方面担当）

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ ことは、11月に御社で双方向チャーターを企画していただき、感謝する。実績を積み重ね、定期便化に繋がりたいと考えており、引き続き、協力をお願いしたい。
- ・ 東南アジアの旅行代理店等からは、立山黒部アルペンルートや兼六園、高山市等の訪問先しか聞こえてこないが、本県には、どこにも負けない魅力がたくさんある。幅広く北陸エリアを発信するとともに、ぜひ石川県、小松空港を頭の真ん中に置き、観光ルートを組み、誘客していただきたい。

◎ 中村総括支店長挨拶概要

- ・ 日本海側を初め、四国、南九州でのタイ人のマーケットが弱く、特に強化すべき課題だと捉えているが、こちらが思う日本の魅力とタイ側のマーケットにずれがあり、埋めていく必要がある。
- ・ 11月のチャーター便については、目下、集客に力を入れている。
- ・ 外国人旅行者がANAの国内路線を格安で利用できる個人向け旅行商品（HANAVI）で石川県とタイアップした商品ができたことから、今後、販促を進めていく。

◎ 意見交換・質疑応答等

Q：タイ人の旅客を呼び込むためには、何が効果的か。

A：来年の5、6月に1,000人規模の報奨旅行の話がある。現状、タイから日本への報奨旅行は、目的地として日本を希望するだけであり、行き先の具体的なオーダーはない。貴県には、海外誘客の支援制度はあるか。金銭的なサポートも一つだが、京都では、芸妓の舞い、沖縄では、エイサー披露等、特別なアレンジがあれば、差別化でき、ありがたい。

Q：本県の芸事のレベルは、非常に高いが、金銭的な支援については、どの程度をイメージしているのか。

A：貸切バスの半額助成や1万円の宿泊助成補助等があれば助かる。

Q：1万円は、額としては大きすぎる。それほどの額を補助しているのは、沖縄県くらいではないか。各所の価格競争になるのは、いかがなものかと考える。

A：確かに沖縄の支援は手厚いが、タイ側からも、厳しい予算が示されることから、結果、距離が近い九州や沖縄を選択することが多くなり、面白味を欠いている感は否めない。

Q：本県には、御社の支店もあるが、受け地の石川とタイで情報が共有できれば、より連携しやすくなるのではないか。

A：将来的には、北陸にもセクションを作る必要があると認識しているが、現在は、名古屋市にある中部営業本部のインバウンドセクションと調整している。

Q：タイ人も、温泉に興味があるのか。

A：興味はあるが、他人と一緒に入るのが苦手な人もいる。以前は、団体旅行の半数が入れないこともあったが、リピートのたびに慣れ、比率は上がっている。現在は、日本への来訪目的の上位に温泉がランクされている。

Q：タイ国際航空を訪問した際、今後、質の高い客に来ていただくことが大切になるとの話があったが、何がインセンティブになるだろうか。

A：食事と宿泊施設、温泉である。特に温泉については、入るかどうかは別としてどのような温泉宿なのか、タイ人が食べやすい食事か、英語の言語表記はあるか等まで見ることになる。

Q：日系進出企業も多く、本社への訪問も兼ねて、日本を訪れる機会も多いのか。

A：研修を兼ねたインセンティブツアーも多い。

Q：タイ人が喜ぶおもてなしは何か。

A：ちょっとした気遣いの部分である。見えなくなるまでお辞儀している等にも感動するようである。また、タイ語は、マイナー言語であり、日本でタイ語が見られたことだけでも感激する場合がある。

Q：御社として、最も力を入れていることは何か。

A：タイ人マーケットを作っていくことが日系企業としての使命だと考えている。

Q：ぜひ本県への誘客をお願いしたい。

A：金沢のブランドは、タイ人にも認識されている。現在は、定期便がないため、東京等とつなげるとともに、チャーター便を利用した商品の販売にもチャレンジしているところである。



H I S バンコク支店



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



中村総括支店長挨拶



意見交換・質疑応答等





< 訪問調査（ジェトロバンコク事務所） >

- ・ 時 間：15時30分～16時30分
- ・ 対応者：保住 正保 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)バンコク事務所長

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ タイには、建機メーカーのコマツを初め、県内企業も多く進出しており、交流が盛んである。
- ・ 小松空港は、名実ともに日本海側の拠点空港であり、新たな国際定期便の就航先として、タイを候補地に考えている。
- ・ 当地の経済情勢、観光事情等について、情報提供をいただきたい。

◎ 情報提供概要（保住所長）

- ・ バンコク日本人商工会議所には、現時点で1,650社が加盟している。上海の2,600社に次ぎ、2番目の規模であり、さらに増加が見込まれている。
- ・ 日本食レストランは、2,300社あり、増加傾向にあるものの、入れ替わりが激しい。
- ・ 消費動向としては、農家所得が減少している等により、停滞傾向にある。回復はしていない。
- ・ 各種統計により差があるが、タイは、GDPに占める観光分野の比率が8%もしくは11%と高い割合を占めており、昨年は、日本の倍となる約2,500万人のインバウンドがあった。ことしも、爆弾テロがあったものの、2,900万人まで伸びると予想されている。日本と同様、中国からのインバウンドが増加しており、購買力も強い。

◎ 意見交換・質疑応答等

Q：タイ人の旅客を受け入れるに当たり、我々に不足しているものは何か。

A（保住所長）：タイ語でのPRである。自治体等には、パンフレット等の作成を特にお願している。タイは、SNSの普及率が高く、口コミの力が非常に強い。そのネットワークにリンクしていくためには、タイ語で現地情報へのアク

セスが可能となる環境整備が必要である。地域で連携し、タイ語で魅力を発信していくことが大事である。

Q：タイ人は、日本食を好むのか。

A（保住所長）：タイには、外食文化が根付いている。日本食は、タイ料理の次に好まれる傾向にある。本物の日本食を求めて訪日するケースも多くなっている。帰国後、日本各地の食の魅力が拡散し、タイで同じような料理が供給されるリンクエージができれば、ウィンウィンの関係が築けるのではないか。



ジェトロバンコク事務所



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



情報提供（奥：保住所長）





意見交換・質疑応答等

< 交流会 >

- ・ 時 間：19時～21時
- ・ 参加者：タイ王国石川県人会会員7名

小松ータイ便の開設に向け、現地の経済情勢や本県との交流事情等について、情報、意見交換を行った。



平成 27 年 10 月 20 日(火)

< 訪問調査（タイ国政府観光庁） >

- ・ 時 間：9 時 20 分～10 時
- ・ 対応者：ユッタサック・スパソーン タイ国政府観光庁総裁
スリスダ・ワナピンヨーサック タイ国政府観光庁副総裁

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ 石川県は、日本の中央に位置し、3 月に開業した北陸新幹線で東京から 2 時間半、大阪、名古屋からも 3 時間圏内となっており、大変アクセスが良い。
- ・ 四季もはっきりしており、冬は雪景色、春は桜、秋は紅葉が大変美しく、魅力的な地である。
- ・ 小松空港は、日本海側最大の空港であり、昨年は、200 万人を超える利用があった。国内線 6 路線のほか、国際線 3 路線と国際貨物便も就航しており、今後、さらに国際化を進めたいと考えている。
- ・ 定期便の開設に向け、毎年タイを訪問しているが、前回訪問した際、まずは、チャーターの実績を積むことが大切だとの話があり、昨年度は、3 回の双方向チャーター便を運航し、いずれもほぼ満席となった。ことしも、11 月と年末年始に 2 回予定しているほか、2 月にも新たな計画がある。
- ・ 本県は、観光だけではなく、産業も盛んであり、タイに 100 店舗以上展開しているハチバンら一めんや世界的な建機メーカーのコマツ等、多数の企業がタイへ進出している。進出企業も定期便の開設を切望しており、総裁、副総裁には、力強い後押しをお願いしたい。

◎ ユッタサック総裁挨拶概要

- ・ 皆様の訪問を心から歓迎する。
- ・ 8 年間日本に留学していたが、貴県には行ったことがなく、近いうちにぜひ訪問したいと思っている。11 月下旬、副首相が東京を訪問する際、私と副総裁も同行するので、石川県へ足を運べるか検討したい。
- ・ 我々のミッションは、国内の観光振興と海外からのインバウンド促進である。定期便が就航すれば、双方において、新たな次元の観光振興が期待できるほか、タイへの理解が深まる大きなチャンスであり、来訪者の増加にもつながる。
- ・ 昨年からの観光客は 120 万人だったが、数年先には、200 万人に達すると期待している。小松への定期便就航は、その秘密兵器になるのではないかと考えている。
- ・ 今回の訪問をスタートとして、今後、貴県や小松空港関係者と観光誘客の促進を図り、一過性ではなく、持続可能な関係を築いていきたいと考えている。
- ・ 日本とタイの関係がますます発展し、タイ国政府観光庁と貴県の関係が深化するよう期待する。

◎ 意見交換・質疑応答等

Q：ぜひ石川県にお越しいただきたい。県を挙げて歓迎する。

A（ユッタサック総裁）：今後、調整したい。本日の訪問は、素晴らしいスタートになったと思うが、これから長い付き合いになるので、まずは、観光振興で関係を深めていければと考えている。現在は、立山黒部アルペンルートや高山市に足を運ぶタイ人が多いが、金沢には、間違いなくチャンスがあり、マーケティング次第だと思っている。タイ人向けにタイ人が好む素材を情報発信すれば、石川を訪れる人がよりふえていくだろう。

Q：本県でも、タイからの訪問者が昨年比で5割近くふえており、その受け皿としても、ぜひ定期便を就航させたいと思っている。近いうちに本県で再会できることを心待ちにしている。

A（ユッタサック総裁）：貴県の観光政策や定期便に向けた取り組みが実現するよう応援したい。皆様の成功を祈っており、間違いなく成功すると考えている。



タイ国政府観光庁



左：ユッタサック総裁



左：スリスダ副総裁



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



ユッタサック総裁挨拶



意見交換・質疑応答等



< 訪問調査（ハチバンらーめんシーロムコンプレックス店） >

- ・ 時 間：11時～12時
- ・ 対応者：清治 洋 株式会社ハチバントレーディング（タイランド）社長

昼食をとりつつ、現地の経済情勢や経営環境等について聞き取りを行った。



店舗入居ビル



店舗外観（地下1階）



清治社長による現況説明



聞き取り調査



< 訪問調査（バンコクコマツ） >

- ・ 時 間：15 時～16 時
- ・ 対応者：我妻 毅 バンコクコマツ株式会社副社長
坂本 康子 バンコクコマツ株式会社主任

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ 小松空港の新たな国際線の就航先として、タイを念頭に置き、活動を進めている。
- ・ 御社幹部からも、かねてより、ビジネス需要も多分にあり、定期便を就航させてほしいとの後押しをいただいているが、当地でのビジネスの概要について教えていただきたい。

◎ 現況説明（我妻副社長）

- ・ バンコクコマツは、コマツの 22 ある拠点の一つであり、東南アジアの重要拠点である。
- ・ タイは、部品の現地生産のクオリティが高く、日本の協力企業のタイ工場からかなりの部品をローカル調達しており、本工場の特徴となっている。

◎ 意見交換・質疑応答等

Q：タイでの生産は、コスト的に相当有利なのか。

A（我妻副社長）：人件費は安いものの、主要コンポーネントは、日本から購入しており、収益構造が若干複雑である。絶対的な比較は、なかなかできないが、現在は、日本で生産するよりも、6～7%高い状況にある。ただし、日本の利益を控除し、純粋に原価で比較した場合は、安くなっている。

◎ 工場視察

我妻副社長の案内により、工場及び敷地内を視察。



工場外観



事務所建物



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



我妻副社長挨拶



現況説明



意見交換・質疑応答等





工場視察



< 夕食会 >

- ・ 時 間 : 19 時 ~ 21 時
- ・ 参加者 : 福田 和弘 独立行政法人国際交流基金バンコク日本文化センター所長
岡部 研一郎 ジェトロバンコク事務所アドバイザー
長谷場 純一郎 ジェトロバンコク事務所ディレクター

小松ータイ便の開設に向け、現地の訪日観光事情や交流状況、経済情勢等について、情報や意見交換を行った。



平成 27 年 10 月 21 日(水)

< 訪問調査（ノックスカート航空） >

- ・ 時 間：16 時～17 時
- ・ 対応者：トリーサン ノックスカート航空人事課長
オナノゴーン ノックスカート航空路線計画アシスタントマネージャー
ワタヤコーン ノックスカート航空法務担当副マネージャー
ウィスティサ ノックスカート航空セールスマネージャー

◎ 視察

ノックスカート航空が入居するドンムアン空港を視察後、事務所を訪問。

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ 我々は、日本列島の中央に位置する石川県から訪問した。
- ・ 本県にある小松空港は、2,700m の滑走路を持ち、日本海側で最も大きい拠点空港である。大型機の就航も可能であり、昨年度は、200 万人をはるかに超える旅客があった。国内 6 路線のほか、上海便週 4 便、ソウル便週 3 便、デイリーの台北便が就航している。特に台北便は、通年で 8 割を超える搭乗率を維持しており、ピークシーズンには、臨時便も運航されている。
- ・ 今後、さらに国際便を増やしたいと思っており、次のターゲットとして、タイと香港を考えている。
- ・ 昨年度は、タイ国際航空の機材により、双方向チャーター便を 3 回実施したほか、ことし 11 月と年末年始、さらには 2 月にも、同様の計画がある。
- ・ 本年 3 月には、東京・金沢間で北陸新幹線が開業し、県内各地は、国内客で大変にぎわいを見せているが、タイの観光客も、昨年は、前年比 4～5 割増となっている。
- ・ 御社は、新しい LCC であり、まずは、成田や関西国際空港等の大都市周辺への乗り入れを検討しているかもしれないが、これからは、費用面等を鑑みても、地方空港に拠点を設けることが有望ではないかと考える。

◎ トリーサン人事課長挨拶概要

- ・ 弊社は、1 年前から運航を開始した格安航空会社である。
- ・ 現在の就航先は、シンガポールと南京のみだが、近い将来、チンタオと台北に乗り入れる見込みである。
- ・ 10 月には、チャーターフライトとして、成田空港に 7 便、12 月には、12 便を運航する計画もある。
- ・ 日本への就航については、我が国が ICAO（国際航空民間機関）から指摘を受け、新規開設ができない状況となっており、現在は、中国をターゲットに据えている。制約が解除されれば、東京や大阪以外への就航も考えており、将来的には、小松便についても協議する可能性はある。

- ・ チャーター便についても、可能性があれば、相談させていただく。

◎ 意見交換・質疑応答等

Q：今後、保有機材をふやす予定はあるか。

A（トリーサン人事課長）：2017年以降にふやす計画がある。現在は、B777を3機保有している。

Q：台湾と石川は交流が深く、バンコクー台北ー小松の乗り継ぎにより、タイ人だけではなく、台湾客の利用も期待できると思う。

A（トリーサン人事課長）：弊社の親会社は、シンガポールのスクート社だが、スクート社では、経由便として、シンガポールー台北ー仁川あるいは東京の2ルートを開設しており、好評と聞いている。需要にもよるが、経由という選択肢もあるかもしれない。

Q：日本のほかの地方空港では、新規就航後の撤退が相次いでいるが、小松空港の国際線3路線は、いずれも、開設から10年近くが経過し、全て成功している。本県は、日本海側の中心地であり、魅力も多く、ぜひ就航を検討していただきたい。

A（トリーサン人事課長）：タイ人の旅行先は、以前は、韓国の人気が高かったが、ビザ緩和以降、日本への関心が高まっており、今後、検討してみたい。



ドンムアン空港（旧バンコク国際空港）





ノックスクート航空事務所



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



トリーサン人事課長挨拶



意見交換・質疑応答等

< 出国 >

スワンナプーム国際空港出発、香港国際空港着（香港市内泊）

平成 27 年 10 月 22 日(木)

< 訪問調査 (EGL ツアーズ) >

- ・ 時 間：10 時～11 時
- ・ 対応者：袁 文英 EGL ツアーズ社長 (董事総経理)
末廣 啓一 EGL ツアーズ総括部長
末廣 景子 EGL ツアーズスーパーバイザー

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ 袁社長におかれては、本県の観光大使にも就任いただき、送客に大変協力していただいている。心から感謝申し上げたい。
- ・ 小松空港の国際線 3 路線は、いずれも順調であり、特に台北便は、デイリー化後も座席が不足する傾向にある。貨物便についても、新たな就航が見込まれており、前向きな状況である。
- ・ 国内線については、北陸新幹線の開業により、羽田便の乗客が 3 割以上減少し、苦戦している。
- ・ 昨年の香港からの兼六園入園者は、1 万 9 千人を記録し、ことしも倍増が見込まれている。御社の力添えがあつてこそであり、感謝申し上げる。
- ・ 一日も早い定期便開設に向け、さらなる力添えが必要である。ぜひとも協力をお願いしたい。

◎ 袁社長挨拶概要

- ・ ことしは、訪日旅行が絶好調であり、まもなく 100 万人を突破する見込みである。香港の人口は、700 万人であり、実に 7 人に 1 人が訪日していることになる。
- ・ 北陸新幹線開業の影響により、ホテルが取りづらくなっていることもあり、現在は、南九州への送客に力を入れている。特に、昨年 3 月に開設された鹿児島
の定期便に注力している。週 3 便で 85% の搭乗率があるほか、ことし 3 月には、宮崎へ週 2 便、12 月 14 日からは、熊本に週 2 便の運航が開始され、南九州全体でデイリー運航が実現する。南九州が落ち着けば、貴県への送客にさらに力をいれていきたいと考えている。
- ・ 石川に連れていったお客様からは、皆、良かったとの話を聞いており、地元の皆様には、本当に感謝している。
- ・ 富山県にアウトレットモールができたが、観光面では、非常に大きな魅力である。
- ・ 香港航空に新しい機材が入っており、興味があれば、一度訪問し、相談してほしい。同社からは、来年新たに 5～6 機、機材をふやすとも聞いている。日本への新規路線も検討しており、チャンスだと思う。香港ドラゴン航空等にも働きかけを強め、当初は、週 2 便程度の定期便からスタートし、ステップ・バイ・ステップで増便できれば、我々もありがたい。

◎ 意見交換・質疑応答等

- Q：南九州へ次々と乗り入れているのは、全て香港航空か。香港航空は、キャセイパシフィック航空より日本への就航に前向きということか。
- A（袁社長）：どちらかと言えば、香港航空の方が就航しやすい状況にある。キャセイパシフィック航空は、中部国際空港への乗り入れが好調であり、現在、トリプルデイリーだが、それでもなかなか席がとれない状況にある。小松便を開設すれば、需要を取られかねない。香港航空は、中国資本であり、機材が新しく、グループ全体で数百機の規模で発注している。
- Q：鹿児島への乗り入れをふやすのではなく、あえて宮崎が選択された理由は何か。
- A（袁社長）：宮崎インにより、南九州全体を回れることが香港の旅客を惹きつけている。乗客の8割は、香港人であり、インバウンド向けの路線となっている。
- A（末廣総括部長）：弊社では、定期便の座席を一定程度押さえており、鹿児島イン宮崎アウト、宮崎イン鹿児島アウトの席が読める。熊本就航により、南九州全体でデイリー化が実現し、さらに周遊しやすくなるだろう。
- Q：南九州では、雪は降らないが、北陸には、雪だけではなく、温泉等もあり、何でもそろっている。香港の人々にとっては、魅力ある旅行先だと思うが。
- A（袁社長）：間違いなく魅力がある。貴県には、金沢のみならず、能登半島など、さまざまな魅力がある。定期便が就航すれば、送客する自信はある。
- Q：加賀も4温泉がコンパクトに集まっており、ぜひ泊まっていたきたい。
- A（袁社長）：素晴らしい温泉地であると思っている。今後の地域の発展を考えた場合、国際定期便の就航は、非常に大切であり、航空会社への着陸料等の支援策を検討した方がよい。鹿児島や宮崎、熊本でも、航空会社に年間で支援を行っており、呼び水になっている。ぜひエビで鯛を釣ってほしい。
- Q：九州と北陸では、航空運賃もさほど変わらないのではないか。
- A（袁社長）：北陸が少し高くはなるだろうが、それほど差はないだろう。名古屋便見合いの運賃になるだろう。
- Q：名古屋と小松もそれほど遠くなく、中部空港イン小松アウト、あるいはその逆でも、うまく回るような気がするが。
- A（袁社長）：チャーターの場合は、小松イン小松アウトがよい。訪日旅行者の中には、個人客が一定数おり、増加傾向にあるが、レンタカーで周遊することが多い。乗り捨て料金が高額になるため、小松空港でレンタカーを借り、中部国際空港で返却する旅行者は、ほとんどいないだろう。
- Q：富山県にできたアウトレットモールは、インバウンド誘客の大きな魅力になるだろうか。
- A（袁社長）：非常に大きな魅力となる。香港の旅客は、ショッピングモールよりアウトレットを好む。ショッピングモールのイメージは、いわばスーパーマーケットであり、日本で行くべき意味は薄いと感じている。
- Q：香港には、裕福な人が多いということか。
- A（袁社長）：日本人よりお金を使うことが好きかもしれない。インバウンドは、積極的に受け入れるべきであり、受け入れなければ、今後の地域の成長はない。

- Q：香港航空へのセールスは、一日も早い方が良いだろうか。
- A（袁社長）：定期便開設に向けた手続きには、半年以上かかる。チャーターは、比較的簡易だが、それでも集客に2か月程度は必要である。
- Q：米子空港が定期便化に向けて取り組みを進めているようだが、どのような支援を行っているのだろうか。
- A（袁社長）：宣伝費の支援や一人当たりの宿泊助成等、鳥取県がそれなりの支援を航空会社に行っている。
- Q：海外客のリピーターも多くなってきたが、北海道、東京、大阪、沖縄等は、既に行き飽きたところもあり、徐々に北陸へ関心が向いてくるのではないか。
- A（袁社長）：問題は足だけである。ぜひ定期便を開設して欲しい。チャーターであれば、すぐに飛ばせるが、それなりの期間、連続してチャーターしなければならない。曜日に関係なく、10～15回実施することになる。
- Q：米子空港のチャーターには、日本からも搭乗できるのか。
- A（袁社長）：インバウンドチャーターであり、米子からは乗れない。
- Q：LCCの利用は考えられるか。
- A（袁社長）：LCCでは、団体旅行が企画できず、ほぼ個人客になる。
- Q：日本から香港へのチャーター便の現状はどうか。
- A（袁社長）：今は為替が厳しく、日本からのチャーター便は難しい。現在は、日本が外国人にとっての買い物天国になっている。



EGLツアーズ本社ビル



面談会場



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



袁社長挨拶



意見交換・質疑応答等



< 訪問調査（キャセイパシフィック航空） >

- ・ 時 間：14時30分～15時10分
- ・ 対応者：クインシー・イップ キャセイパシフィック航空事業計画マネージャー
メロディー・カン キャセイパシフィック航空収益管理マネージャー
ジャネット・マオ キャセイパシフィック航空国際路線マネージャー

◎ 福村団長挨拶概要

- ・ 我々は、小松空港の国際線拡大を望んでおり、メインのターゲットは、香港である。
- ・ 2年前に訪問した際は、当時のヴィンセント氏から、2015年夏という具体的な就航時期まで提案いただき、大いに期待していたが、なかなか良い返事がなく、ことし8月、御社の子会社香港ドラゴン航空が広島に就航したこともあり、今回、再度訪問したものである。
- ・ 御社の就航先は、現在、太平洋側のみであり、日本海側に拠点を設けることは、戦略上、大変意味があるものと考えている。
- ・ 小松空港の国際線3路線は、いずれも順調であり、それぞれ10年近く、運航が継続されている。特に台北便については、6年前に週2便からスタートし、現在は、デイリー化され、高い搭乗率を維持している。
- ・ 香港航空が鹿児島、宮崎、熊本に矢継ぎ早に定期便を開設し、焦りを感じているが、御社には、以前から相談しており、誠実に対応していきたいと思っている。
- ・ 定期便開設に向けた前向きな話が聞ければと願っているが、御社の現況と小松就航の可能性をお聞かせいただきたい。

◎ クインシー・イップ事業計画マネージャー挨拶概要

- ・ キャセイパシフィック航空、香港ドラゴン航空を代表して、皆様の訪問を歓迎する。
- ・ 日本は、最も重要なマーケットの一つであり、香港からの需要も大きくなっている。
- ・ 新規路線については、いろいろな角度から検討しているが、広島就航に当たっては、貴県の需要が季節により変動があり、広島に比べ、安定していないと考えたものである。
- ・ 今後、貴県と協力しつつ、改めてチャーター便の運航や定期便の就航を検討できればと思っている。

◎ 意見交換・質疑応答等

- Q：年間需要が安定していないとの認識は、誠に遺憾である。本県ほど、年間を通じて見どころがある場所はないと思っている。現に台北便については、80%の搭乗率を維持しており、年間を通じて、安定的な需要がある。

- A (クインシー・イップ事業計画マネージャー)：香港人も北陸の自然に惹かれていることは事実だが、旅行代理店等の話では、貴県に行きたいと考える時期は、立山黒部アルペンルートが開通する4月から6月に集中しているとのことである。弊社では、年間を通じた貴県の魅力は、まだ認知度が不足しているものと認識している。
- Q：定期便がない現在も、香港の旅客は、年中本県へ来ている。昨年の兼六園の入園者数は、一昨年の4割増となっているほか、ことしも大幅に増加しており、十分な需要が見込めると考えている。もはや、チャーターの実績が必要な段階ではないと思うが、チャーター便の運航に際しては、御社で機材を準備することは可能か。
- A (クインシー・イップ事業計画マネージャー)：認知度を上げるという意味では、チャーター便は、非常に効果的である。チャーター便が強い根拠となり、実績が上がれば、定期便の支えとなる。機材については、香港国際空港の発着枠や人員、機材等が限られているものの、強い根拠があれば可能である。
- Q：チャーターではなく、早急な定期便の就航を真剣に考えていただきたい。先延ばしにしていけば、御社は、良い市場を失うことになる。
- A (クインシー・イップ事業計画マネージャー)：話はよく分かったが、弊社としても、長期的に検討すべき課題である。今のところ、弊社は、日本の西側には、直行便がなく、将来的には、小松空港に就航できることを期待している。
- Q：もっと短期的に考えていただきたい。小松空港は、今どのような位置づけにあるのか。
- A (クインシー・イップ事業計画マネージャー)：日本は、非常に大切な市場であり、弊社としても、日本でのネットワークを広げたいと考えているが、機材や人員も限られており、厳しい面がある。香港国際空港は、スロット制限に悩まされており、先般、ようやく政府が3本目の滑走路の建設を認可したばかりであり、来年着工しても、完成に8年の年月を要する。日本市場はとても大切であり、さまざまな課題を早期にクリアし、小松へも就航できればと考えているが、路線の需要が何より必要不可欠である。定期便開設には、さまざまなハードルがあり、引き続き、旅行代理店等や一般市民へのプロモーションに努め、貴県の認知度を高めていただくよう期待する。
- Q：御社のような大手航空会社が就航すれば、それだけで、本県や金沢、小松空港の認知度が上がり、さらに需要が生じると考えられる。定期便が就航し、一度本県を訪れていただければ、旅行客が口コミで良さを広げてくれると思う。その点も考慮に入れ、ぜひ計画を立てていただきたい。
- A (クインシー・イップ事業計画マネージャー)：スロット制限が解除され、機材等のリソースが十分であれば、就航後の需要喚起等の方策もあるだろうが、現状では、十分なリソースがあるとは言えず、まずは、需要が見込めるかが前提である。



キャセイパシフィック航空本社



進行：下沢秘書長



福村団長挨拶



意見交換・質疑応答等



< 出国 >

香港国際空港出発、韓国・仁川国際空港着（空港内泊）

平成 27 年 10 月 23 日(金)

< 帰国・解団式 (小松空港) >

仁川国際空港出発、小松空港着、解散。



解団式

石川県議会タイ・香港 地方行政視察報告書

石川県議会議員 下沢 佳充

1 行程

(1) 日程 平成27年10月18日(日)～10月23日(金)

(2) 訪問先

- ・タイ：タイ国際航空、HISバンコク支店、JETROバンコク事務所、政府観光庁、バンコクコマツ、ノックスコート航空
- ・香港：ELGツアーズ、キャセイ・パシフィック航空

2 主眼

北陸新幹線金沢開業により、小松空港の利用者数に大きく影響が表れている。今後、北陸新幹線の敦賀延伸が現実のものとなった際には、福井県側の利用にも影響を及ぼすことは必至である。

危機管理面等においては、新幹線だけでなく、公共インフラとしての「空の足」は重要なポイントであることから、日本海側の拠点空港という位置付けを保つべく、活性化に向けた取り組みとして、更なる国際化を図っていく必要がある。

そこで、今回、タイ、香港の政府関係機関、航空会社及び旅行会社等を視察し、現地の状況を調査するとともに、新規航路開拓のための要望を行う。

併せて、現地進出企業の現状を視察し、県内企業の海外展開の可能性を探る。

なお、以上の趣旨から、今回の視察は小松空港国際化推進県議会議員連盟との共催で実施する。

3 概要

(1) タイ国際航空

①内容

昨年、小松空港との間で双方向チャーター便を3便実現した。以前、日本海側に拠点を作りたいという計画があったことから、今後の定期便化に向けた取り組みを要望。

②考察

タイ国際航空は、現在、組織改革中で、新規路線就航には慎重な姿勢であった。

石川県だけでなく、北信越や岐阜県とも連携して、観光面で有力な地域であることをアピールできる土壌を更に磨いていく必要がある。

その中で、日本海側の拠点空港という優位性を高め、就航にこぎつけていきたい。

(2) HISバンコク支店

①内 容

北陸の概要等を説明し、招待旅行も含め、タイからの観光客を呼び込む方策について協議した。その中で、食事や宿、温泉などが訪日（訪県）の目的として挙げる人が多いが、小松空港を利用した場合のインセンティブの創設や県内における宿泊施設の確保なども判断材料のひとつであるとのことであった。

②考 察

潜在的な訪日希望者が多く、特に、食事や宿の面で優れている本県は、有力な対象地であることが見受けられた。

高額な予算措置は困難であることから、例えば、タイ語による歓迎や、タイ国旗の掲揚などのちょっとした「おもてなし」が口コミで広がっていく可能性が高く、また、金沢ブランドの魅力も十分武器となると認識した。定期便化に向けた強い手応えを感じた次第である。

(3) JETROバンコク事務所

①内 容

タイへ進出している県内企業の状況や、今後の海外展開を模索している企業があることから、タイの経済情勢や観光事情についてレクチャーを受ける。

バンコクの日本人商工会議所には1,650社が加盟しており、また、タイ国内の日本食レストランは2,300ある。

タイは観光分野のGDPに占める割合が高く、昨年は2,500万人のインバウンドがあり、購買力の強い中国からのインバウンドも増加している。（日本は1,300万人）

現在は、国連機関であるICAOからタイ国内の航空会社の管理体制を問われており、この点が日本への新規就航のハードルとなっている。

②考 察

タイはインターネットのSNSの普及率が高く、口コミでの影響力が大きいことが判明した。

日本食を好む傾向があり、飲食関係企業の進出や県産食材の活用が期待でき、そのためにもタイ語での情報発信や、現地テレビ局と連携した番組放送も有効な手段である。（現に他県では放映している）

また、タイの旅行者を呼び込みためにも、地域で連携して、魅力をタイ語で発信していくことが大切である。

(4) 政府観光庁

①内 容

観光庁の総裁及び副総裁に対し、小松・バンコクの定期便就航に向けた後押しを依頼する。

日本からタイへの観光客は、昨年120万人で、今後200万人を目指している。小松空港への就航が達成の鍵になるかもしれない。

近年は岐阜高山へ足を運ぶタイ人が多くなったが、石川県は観光資源が豊富で食材も魅力的であるという認識であった。（総裁は日本滞在歴8年）

②考 察

継続的なマーケティングやプロモーションの重要性を再確認した。石川県にはインバウンドの素地があり、タイ人に好まれる素材をどのようにして情報発信していくかによって、人の流れが大きく変わる可能性を感じた。

(5) バンコクコマツ

①内 容

タイ進出後の状況を副社長から聴き取る。

グローバル生産体制として、需要のあるところで生産・組立を行うこととしており、日本からも協力企業が数多く進出し、東南アジアの重要拠点としての位置付けである。（建機・鋳造合計のスタッフは810人、うち日本人駐在員は11人）

近年、生産・販売量は下降気味で、インドネシアの景気の影響が大きく左右している。

②考 察

コマツなどの大手進出企業は、情報収集のアンテナが高く太いので、新たに設置した県シンガポール事務所では、その動向や考え方などをこまめに情報収集し、現地でのニーズを的確に捉え、県内企業にフィードバックするような協力体制構築の重要性を実感した。

(6) ノックスクート航空

①内 容

新規参入のLCC会社（シンガポールに本社）を訪問し、タイ・小松の就航に向けた可能性と課題の整理を行う。

現状、3機のB-777を保有し、成田便も運行しているが、今後、機材を増やしていく計画がある。

②考 察

LCCということもあり、フットワークの軽さを感じた。また、路線拡大に向けた意欲も見られ、観光素材のアピールと併せて、小松空港における受入体制（空港利用時間など）の弾力的運用の検討も必要である。

(7) ELGツアーズ

①内 容

本県の観光大使でもある同社社長と香港便就航に向けた取り組みについて懇談する。

香港からの今年の訪日旅行者は100万人を突破する勢いであり、香港の人口が700万人であることを考えると、7人に1人が訪日していることになる。

首都圏などは、なかなかホテルが取りづらい状況にあることから、現在は、九州方面（鹿児島、宮崎、熊本）に注力している。

富山にアウトレットモールがあり、これは大きな武器になる。九州が落ち着いたら北陸に目が行くと思われる。

②考 察

例えば、宮崎空港を利用した場合、九州一円をターゲットに回れるというのが売りであり、北陸も一致団結して周遊ルートを考察しなければならない。

また、まずチャーター便から進めていくこととなるが、女性にとって魅力に感じるようなコース設定も必要で、女性の利用が多くなれば、定期便化への早道であると考えられる。

また、他県の取り組みとして、航空会社への着陸料や宣伝費の支援、宿泊料金の補助などがあり、本県としても充実も含め検討していくべき事項である。

いずれにしても、香港は非常に脈有りの路線であり、早期にキャセイ航空や香港航空などをはじめとする関係機関に働きかけを行う必要がある。

(8) キャセイ・パシフィック航空

①内 容

最近の運航状況と小松就航の可能性について要望する。

②考 察

石川と広島を比較して、通年で安定している広島に就航を決定した経緯が説明され、認識のズレを感じた。

小松就航の場合、機材の調達や香港空港の滑走路の問題もあり、消極的な印象であったが、航空会社の如何は問わず、まずは定期（チャーター）便を就航させ、北陸（石川）の良さを分かってもらう必要がある。

4 総 括

国内事情あるいは航空会社の経営状態など超えるべきハードルは多いが、石川県の観光行政を鑑みた場合、地道な努力が必要であることは論を待たない。

行政上の配慮は当然必要ではあるが、時に国家間の関係がそうであるように、個人的な人間関係が必要、重要視されることは言うまでもない。

したがって、本視察は継続が妥当であり、単年度をもって結果を求めるものではなく、継続する必要性が十分認められる。

地域においても国際化が叫ばれる中、意義深い視察であった。

石川県議会タイ・香港地方行政視察 報告書

石川県議会議員 安居知世

タイ視察について（19日～21日）

石川県議会タイ・香港地方行政視察と小松空港国際化推進県議会議員連盟との訪問団でタイを訪れた。このタイ訪問は毎年恒例で行われており、回を重ねているからこそ積み上げることのできた信頼関係と人脈は石川県にとって大変貴重なものと考え、議会の海外視察については、個人的に政務調査費で行くことももちろん可能であるが、議連や議員団として正式に派遣団を組んで行くからこそ面会できる方や訪問できる場所があることも事実であり議員団として視察することの有効性と、継続して訪問を続けることで生まれる好機があることを県民の皆様に理解していただくことも含めて報告を行う。

近年、タイからの訪日観光客は右肩上がりであり、ビザの緩和によって今後益々訪日旅行客が増えると予想される中、小松空港活性化の一つとして小松空港～タイ空港直行便就航を進めるためにも、タイからの本県への観光誘致を進めることは重要と考える。

そのような中、今回の視察でタイ国政府観光庁を訪れ、ユッタサック・スパソーン観光庁総裁に面会し、総裁の石川県来県の約束を取り付けたことは、大きな成果だったと言える。

同じく今回のタイ視察でタイ国際航空訪問の際に繰り返し言われた「タイでの石川県の認知度が足りない」との課題を解決するために、どのような方法があるのか模索する中で、ユッタサック・スパソーン観光庁総裁が来県時にタイ視察団と面会した際、「石川県の認知度を上げるために、私も協力しよう。タイ観光庁の各地方にある地域支部全てに石川県の情報を送りたいと思う」との申し出があったことは、タイにおける石川県の知名度を上げるにはまさに千載一遇の好機であり、この貴重な申し出をいかに活かすかが重要であると考え。

より有効に知名度を上げるためにも海外用の本県PRポスターとパンフレットをタイ語でも作製し各支部に送ってもらえるよう依頼することを提案したい。

また知事や議長の正式な訪問を行い、関係の強化に努めてはと考える。

本県ゆかりのタイ進出企業（今回はバンコクコマツとハチバン）へも視察を行ったが、進出企業にもタイ語の本県PRポスターを目立つところに貼っていただけるような取り組みを提案したい。あわせて企業の報奨旅行等に石川を選んでもらえるようなしかけも今後検討すべきと考える。

タイH I Sには富山のポスターが貼ってあったが石川はなかった。このことを考えると、PR活動は継続することが重要であり、せっかくシンガポール事務所を開設した

わけであるから、シンガポールだけでなく東南アジア全体で本県にゆかりのある事業所や機関に本県の営業を展開すべきと考える。

先程も述べたが、タイ国際航空とタイのLCCキャリア、ノックスクートの2社を訪問したが、その際両社でともに感じたことは、石川の知名度が低いと思われていること、また石川のキャンペーン等を行っているとはいうものの、単発的で継続性がないため効果が表れていないと思われていることであった。

これらの課題解決のためにも、観光庁総裁の提案をうまく活用し、タイにおいて官民ともに石川の認知度を上げる取り組みを進めることと、シンガポール事務所の効果的な運用を重ねて提案したい。

今回の視察で、小松～タイのチャーター便の実績が重要ということを確認した。そのためタイ視察後、石川県内の旅行会社にタイからのインバウンド旅行の話聞いたが、団体で受ける場合、一人当たりの単価がとても安く、石川県の本当にいいものを見てもらい食べてもらうという観光を提供するのは、なかなか難しいとのことであった。特に観光バスの貸し切り費用が高くなっていることが、単価費用を押し上げる原因とのことであった。

隣県の富山では団体旅行に対するバス代の支援事業を行っており、本県でも検討してはどうかと考える。

香港視察について（22日）

今回の香港視察で強く感じたことは、やはり中国は人脈で物事が決まるとの印象であった。

視察に訪れた旅行会社のELGツアーズでは、香港から長崎・熊本・宮崎への直行便を飛ばしたとの話を聞いた。きっかけは、ELGツアーズに勤めている日本人社員が九州出身で地の利を活かして九州便の段取りを行ったとのこと。石川に思い入れの強い人物を作ることが、小松～香港直行便をつくる早道のような気がした。

参考になったのは長崎・熊本・宮崎の3空港で香港空港とのデイリー化にしているとのこと。

長崎にインして熊本をまわり宮崎からアウトするというような行程が組めるためかえって便利とのことであった。

先般、じゃらんが発表した旅行者の動態調査でも石川～富山で観光を行う旅行者が増えていることを考えれば、小松空港イン富山空港アウト等の行程を組むことも視野に、小松空港と富山空港との北陸連携で直行便誘致を行うことも検討が必要と思う。

以上、今回の視察での体験を参考に今後の本県への誘客と小松空港の活性化について議会や委員会等で提案して参ります。

石川 県 議 会 タイ・香 港 地 方 行 政 視 察 報 告

石川 県 議 会 議 員 室 谷 弘 幸

平成 27 年 10 月 18 日から 10 月 23 日まで、石川 県 議 会 泰 国 ・ 香 港 地 方 行 政 視 察 及 び 小 松 空 港 国 際 化 推 進 石 川 県 議 会 議 員 連 盟 の 団 員 と し て 泰 国 ・ 香 港 を 訪 問 し た の で、以下その概要を報告させていただきます。

本年、3 月 14 日北陸新幹線金沢開業後、小松空港の国内線の約 7 割を占めていた羽田便の利用者減少が大きく目立ち始め、小松空港の国際化は急務となっています。又、新幹線開業に伴い県内からの国内移動の短縮が図られ、関東、関西、中部とも連携を行うことにより、外国からのお客様にとって、小松空港を拠点とした国内観光に大きな可能性が広がっている最中でもございます。

そこで、今回、アジアの中でも成長著しく本県とも交流が拡大しているタイ及び香港の政府機関や航空会社を訪問し、小松空港への就航を強く働きかけると共に、観光情報やビジネス事情等について調査を行いました。

タイ国際空港訪問

タイ国際航空では、ウィワット・ピヤウィロ副社長と面談し昨年度そして今年度、チャーター便の機材を提供していただいたお礼と、来年度以降の協力をお願いしました。その後、小松・タイの定期便開設へ向けて協力依頼を行いました。

副社長からは、タイ国際航空が現在、組織改革中であり、現段階での小松の定期化は難しいとのことでしたが、小松空港の能力を認めた上で将来的な可能性はあり、検討は続けるとの回答でありました。定期便を実現するには、お互いの相互理解と継続的なとりくみが必要であることを再認識し、今後、タイ国際航空側の石川県訪問も要請し、これからも継続的に前向きに取り組んでいくことになりました。

HIS バンコク支店訪問

中村統括支店長らと面談し、日本海側は、タイ人の市場がまだまだ弱い実態を聞かされました。又、支店長から、同社が来年企画している千人規模の報償旅行に対して、石川県へ誘致する場合の宿泊費や観光バスに対して補助を求められました。そこで、帰国後、知事に対して訪問団として助成の検討をお願いしました。

大規模な報償旅行には、他県で助成を行っているケースもある中、石川県へ誘致するためにも、県として石川送客への、県補助制度の充実を図っていくことが今後、求められていきます。

JETRO バンコク訪問

JETRO バンコク事務所では、タイ及びバンコクの近況や日本企業の進出動向及び

タイ人の嗜好などについて説明を受けました。

特に、タイ語での情報発信の必要性を痛感しました。タイ人はクチコミをととても大切にすることで、石川県をより知って頂き、来ていただくには、タイ語の Face book や LINE などヒットするように様々なとりくみを今後行っていくことが必要であることがわかりました。

タイ国政府観光庁訪問

ユンタサック総裁らと面談し、石川の魅力を紹介するとともに石川への送客や小松・バンコク定期便実現への協力をお願い致しました。総裁からは、石川に対して高い評価と持続的な観光促進へのとりくみの必要性をお伺いしました。

又、来月、タイ副首相に随行して東京へ訪れる予定であり、その際に石川県へ行く意向があると語ってくださいました。総裁が石川県へ来てくだされば、石川の魅力を肌で感じていただく良き機会となり、益々相互理解に繋がることとなります。

帰国後、訪問団として知事に総裁の石川県入りに助力して下さるようお願いしました。

ノックスクート航空訪問

ノックスクート航空（LCC）では、小松—バンコク定期便の就航を要請しましたが、国際民間航空機関が安全上の懸念があると指摘したことから、新規路線の開発、特に日本の認可が、制約をうけているとの説明を受けました。

又、現在保有機材が3機のみのため、2017年以降増やしていきたい。そうした中で日本路線が解禁されれば、将来的に新路線として小松とも協議したい。又、現在成田にはチャーター便があるが、かなりの制約がある。小松空港は多少の調整は可能なのかとの問合せなどもあり、将来の小松空港就航への意欲が示されました。

EGL ツアーズ訪問

袁社長と面談し、香港から石川県への更なる送客依頼を行うと共に、小松—香港定期就航への協力を要請しました。

袁社長からは、香港の人はショッピングが好きで、特に円安で、現在、日本への観光客が増えている。石川県は観光資源が豊富で魅力に溢れている、訪日は女性が多いので、女性に合う企画が必要とのアドバイスを受けました。まず、始めは週2便でもよいからはじめることで、その後ステップアップしていく方がよい。又、香港航空にも要請に行くべきだとのアドバイスを受け、チャンスを活かしながら、積み重ねの大切さを伺いました。

キャセイパシフィック航空訪問

石川県の魅力を、香港人全般に PR しないと小松就航は難しいと指摘されました。まず、チャーター便からやっていって、香港の人に、小松の認知度を高め、実績を積

んでから定期便の検討との話になりました。

そこで、訪問団として、来年のチャーター便就航を要請し、今後も継続して相互理解と定期便就航に向けて取り組んでいくことを確認しました。

最後に

小松空港定期便を実現させるには、今後より一層相手国の関係者だけでなく、タイや香港の方々全般に石川の魅力・小松空港というものをより情報発信していくことを痛感した訪問でした。と同時に、相手側の信頼を得るためにも継続的な働きかけがこれからも必要であると痛感しました。日本国内の各地方空港がチャーター便や定期便を働きかけている中、訪問地では、石川県としてどのような支援ができるのか、小松空港そのものの利便性について質問を受け、次は小松との声が何度も聞かされました。

今回の訪問によって、各社から受けた指摘を踏まえ今後の課題解決へと取り組んでいきたい。

石川 県 議 会
タイ・香港地方行政視察報告

石川県議会議員 横山 隆也

平成 27 年 10 月 18 日から 10 月 23 日までの 6 日間、小松空港国際化推進石川県議会議員連盟（福村章会長）との共同催行の訪問団の一員としてタイ・香港を訪れる機会を得ました。

今回の主な目的は、北陸新幹線金沢開業で羽田便が予想以上に苦戦する小松空港にとって、国際便の充実が重要であるとのことから現地の航空会社や旅行代理店幹部等と意見交換を行うことにより、小松空港の更なる国際化を推進し、タイや香港からのチャーター便及び定期便就航の働きかけを行うものでありました。

タイ国際空港

ウィワット・ピヤウィロ副社長と面談し、福村団長から昨年度同様に 11 月から 2 月にかけて、小松—バンコクの双方向チャーター便を飛ばす計画があり、機材協力を要請。副社長からは、正式に要請があれば検討したい旨の前向きな発言がありましたが、一方で定期便就航には、小松はキャパシティーのある空港と認識していると評価を頂いたが自社が組織改革中で、欧州のいくつかの路線も取りやめているとの現状、定期便には慎重になっているとの事、定期便の開設を諦めたわけではなく、準備が整えば小松を提案したいとも話し、検討を続ける姿勢でありました。同席された現地旅行会社社長は雪のないタイの方々にとって、雪景色と冬の味覚は最大の魅力であり、冬時期の旅行が人気があるとのこと。定期便化には通年の旅行商品を提案し、継続した取り組みが必要であると助言されておりました。

HIS バンコク支店

中村統括支店長から経済成長が進むタイでは 2 年前のビザの要件緩和で訪日観光客が一気に増えており、金沢はタイでもブランド力があり小松のどンドンチャーター便を飛ばしてほしい。その上で同社は来年 5、6 月に日本に向けて千人規模の報奨旅行を企画しているとし、他県では宿泊費等の支援を行っているケースもあり、石川が誘致するには団体向けのバス費用などに県の補助制度があればありがたいと話しておりました。

ジェトロバンコク事務所

最近のタイの社会情勢の説明を受ける。

タイ国政府観光庁

ユッタサック総裁は石川は観光資源が豊富で日本を代表するような地域であるとの認識を示し、来月には石川の魅力を自らの目で確かめるために訪問する予定があるとのこと。

観光交流については互いに周知することが大切であり、今回の訪問がスタートであり、ともに観光を促進し持続的な取り組みにしたいと意欲を示されておりました。

タイは日本からの観光誘客に力を入れており、小松との定期便が出来れば石川の人がタイについて知り、足を運ぶチャンスになる。2、3年後には日本人客が200万人に達することを願っており、小松空港はその秘密兵器になるのではないかと定期便化に期待をしておりました。

格安航空会社ノックスクート

小松への実績がない会社ではあるが格安航空会社は確実に旅行客の需要があり、将来的なことも考え就航を要請。担当者からは、ビザ要件が緩和されたことから日本へのタイ人観光客が大幅に増えたことを挙げ、日本路線が解禁されれば現在就航している東京、大阪以外の就航も考えている。将来的に新規路線について小松とも協議することがあると思うし、チャーター便も可能性があれば話し合いたいと述べた。又、空港の営業時間についても柔軟に対応できる旨、伝えました。

EGL ツアーズ

袁社長は円安で日本への観光客が増え、香港の7人に1人が日本に遊びに行っている。石川は能登半島など観光資源がたくさんあり魅力がいっぱいあるとした上で小松への定期便があるかないかだけだと話し、現在南九州に力を入れており、落ち着いたら航空会社を誘って石川への送客を行いたいと意欲を示されました。香港航空が来年、機材を5、6機増やす予定で、日本への新規路線を探しているとの情報を頂き、こうゆうチャンスを確実にすべきであるとの助言を頂きました。又、南九州は複数県でデイリー化就航を行っていることも述べられておりました。

香港の旅行者は、温泉、グルメよりも買い物が大事であるとのことでアウトレット等の施設も重要であることも併せてお話しされておりました。

キャセイパシフィック航空

福村団長から2年前に要望した際に2015年夏ダイヤの就航を目指していることを取り上げ、小松ではなく広島になったことに対する不満を述べ、日本海側の拠点として改めて要望。クインシー・イップ事業計画マネージャーからは、小松は定期便や季節運航便の次の就航候補地の一つとして、いつも可能性を検討しているとし、定期便就航にはチャーター便で実績を積む必要があり、石川県との連携は今後も継続していきたいとし、両者の関係がより深まることを期待していると述べておられました。

まとめ

今回の訪問を通して、各方面と出来るだけ多くの人脈を築くこと、粘り強く交渉をすることが重要であると感じさせて頂きました。

タイでは企業等の報奨旅行の計画が多くあり、県として宿泊や観光バスへの助成があれば旅行社としても送客しやすいとのことであり、検討課題であろうと思います。

香港では北陸への需要は確実にあるが、立山黒部アルペンルートのシーズンである4～6月のみで通年の需要が弱いため、積極的に観光資源をアピールしていく努力が必要であると感じました。又、キャセイパシフィック航空だけでなく、勢いのある香港航空へも路線開設を要請することも考えるべきと思いました。

この、10月18日から23日まで、タイ・香港を訪れ、北陸新幹線金沢開業により、利用者の落ち込んでいる小松空港の更なる利活用促進の視点から、新たな航空路線の可能性について、現地視察を行ってきた。

同時に、円安・ビザ解禁などにより、訪日者が急増している東南アジアでの、本県への誘客の課題等についても意見を交わしてきた。

以下、箇条書きではあるが、視察報告とする。

- ① まず、現在 I C A O（国際民間空港機関）が、タイ民間航空局の安全審査体制に問があると指摘、それへの対応がまだできておらず、結果タイ国際航空等が新規就航の制限を受けている現状がある。
- ② その中で、タイ国際空港は、欧州便等との比較検討の中で、新規路線を検討しており、十分な乗客が見込めるという採算性がまず問われている。
- ③ タイでは、ビザ解禁前に訪日客が28万人であったものが、2014年には67万人にも急増しており、明年にも100万人突破するのではと見込まれている。
10年前から、石川を紹介しているが、アルペンルートに行くときに、高山や金沢も寄るという第一義的な観光地としてはまだ知名度不足のようである。
それは、キャセイパシフィック航空へ訪れた時も同様で、石川への訪問シーズンは4～6月という立山アルペンルートの時期しかないという認識であった。
- ④ したがって、通年で本県が充分訪問する値ある地域であるというPRがまだまだ不足しているのが実態である。
- ⑤ H I S バンコク支店では、報酬旅行等で来日の需要が見込まれるが、訪日に際し、金銭的サポートやイベントサービスなどプラスαの支援がないのか問われ、訪日に関して都市間競争があるという現実を見せつけられた。
本来の地域の魅力によって誘客をはかられればいいが、当面サービス合戦の様相は避けられそうもない。
これにどう対処していくのか、問われている。
- ⑥ J E T R O バンコク事務所では、タイの訪日者も個人客が増えており、L I N E ・ F a c e b o o k 等への情報発信が期待されている。従って、タイ語でのPRが必要との指摘があった。
佐賀県等では、T V C M なども仕掛けており、現地での情報発信に一層の工夫が求められると思う。
- ⑦ タイの L C C ノックスクート航空は開設して浅く、まだ保有機種が3機という状態であるが、今月が成田に7便、12月には12便計画しているとの事。
今後、飛行機の増設を考えており、2017年以降は呼び込むチャンスがあると

思われる。

- ⑧ 香港EGLツアーズでは袁社長の熱烈歓迎で対応いただいたが、今回訪問できなかった香港航空が便数も増やしており、呼び込むチャンスがあるのではと示唆された。
- ⑨ しかしながら、本県に対する深い造詣があり、本県観光大使になっていただいているが、岡山の観光大使にもなっておられる。
今般、州全体としてデイリーの便を12月14日からしかけているとの答えがあり、北陸よりも九州への意識が先行したという事実がある。
まだまだ、誘客という点では、これもまた都市間競争の真ただ中にあり、自己満足することなく切れ目なくアンテナを高くして情報収集にあたらなければならない。

おわりに

東南アジアでの我が国への関心は、潜在的に相当あり、円安やビザ解禁等で誘客のチャンスを迎えているのは事実である。

しかし、訪日客をどう本県に誘客するかという点では、PR不足や行政支援など、まだまだ課題が多いのが現実である。

幸い、ハード・ソフト両面において本県は恵まれた資源を有しており、これを海外からの視点でどうアピールしてゆくか、ひとりよがりにならないよう積極的におこなえば、間違いなく更なる来県者を確保できるのではないだろうか。

